

新人が十五名当選

―町農業 共済組合― 総代選挙おわる

合川町農業共済組合(組合長金田一蔵氏、組合員千六百八名)総代六十四名の任期満了に伴う選挙は去る月二十七日午前六時半から午後三時までの町内四カ所(東小学校、三木田公民館付属高校、北小学校)の投票所で行われ、即日開票の結果、新人十五人を含む六十四人が当選、今後三カ年間の組合員代表として総代会に出席、共済組合の運営に参与することになった。

なお、今回の選挙は有権者数一、六〇八人、投票総数一、〇〇五、無効一五、投票率六三、四%であった。

◇東地区(二〇人)(得票数)

松橋 学治(前)	二二
和田 千代治(同)	一九
工藤 善市(同)	一八
穴倉 義三(同)	一七
桜井 喜一郎(新)	一七
佐藤 長五郎(前)	一七
疋田 東一郎(同)	一六
森岡 政治(同)	一六
木村 与之助(同)	一五
後藤 要助(同)	一五
桜井 与之助(同)	一四
阿部 幸次郎(新)	一四

◇西地区(二四人)

長浜 松三郎(前)	一三
工藤 留造(同)	一一
吉田 忠太郎(同)	一〇
佐藤 茂三郎(同)	一〇
石戸 忠一郎(同)	一〇
関 喜衛蔵(同)	一〇
吉田 勘四郎(同)	一〇
佐藤 吉太郎(新)	一〇
金田 清四郎(前)	一〇
松井 万之助(新)	一〇
松岡 東左衛門(前)	一〇
松岡 卯助(同)	一〇
斎藤 茂一郎(同)	一〇
成田 喜代治(同)	一〇
成田 重吉(新)	一〇
新田 喜左衛門(前)	一〇
斎藤 与市(新)	一〇
木村 由雄(同)	一〇
平川 栄一(同)	一〇
藤岡 卯一(前)	一〇
木村 友之助(新)	一〇
木村 一蔵(前)	一〇
木村 一蔵(前)	一〇

◇南地区(二八人)

福岡 武治(新)	二九
金田 茂正(新)	二四
三浦 重治(前)	二三
桜田 亀吉(前)	二三
金田 三平(前)	二三
北林 武治(新)	二二
福田 勇一(同)	二二
松橋 寅吉(同)	二〇
松田 作之丞(前)	一九

◇北地区(二二人)

杉淵 秀松(前)	二三
藤 島 清(同)	二二
藤 島 清三郎(同)	二二
相馬 三三郎(同)	一八
村岡 春蔵(同)	一八
村岡 博(同)	一五
山田 寅五郎(同)	一四
藤田 勇吉(同)	一四
杉淵 清一郎(同)	一三
藤島 春松(同)	一三
小笠原 弘(同)	一一
杉淵 繁(同)	一〇

燃えやすい カヤ屋根の改修を

＝町の改良事業で＝

大火を防ぐ ①主として農林業に従事する者の住宅であること。 ②町税および公的年金を完納していること。

◇貸付対象事業

①可燃性の屋根の改良であること。

②カヤ、マサ、杉皮その他これに類する材料で作成、またはふいた屋根。

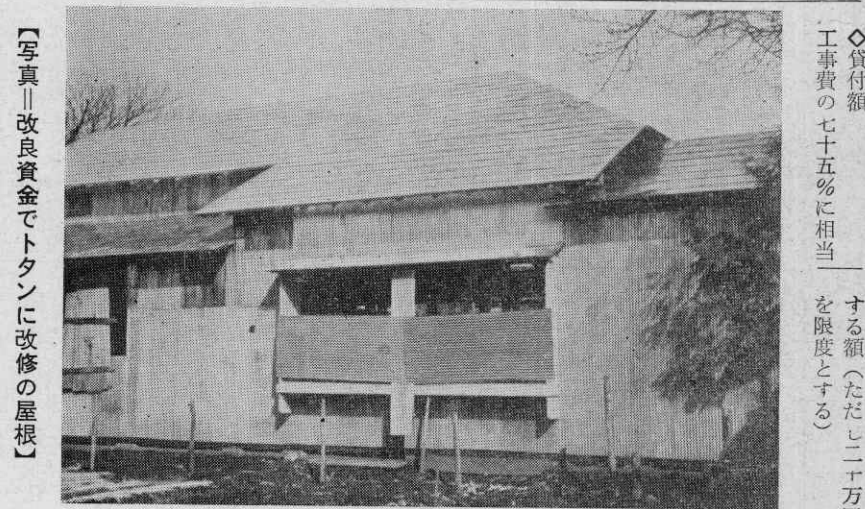
◇改良とは可燃性の屋根を、カワラ、トタンその他これに類する材料で作成するか、または完全に被覆するもの。

◇事業費の単価(坪当)

(イ)カヤ屋根を平屋根トタンぶき全面改修 五、八五〇円

(ロ)カヤ屋根にトタン被覆改修 三、五五〇円

(ハ)まさ屋根にトタンぶき被覆 一、一〇〇円



【写真】改良資金でトタンに改修の屋根

◇貸付額 工事費の七十五%に相当する額(ただし二十万円を限度とする)

タバコは 町内で!!

行楽のシーズン、お出かけの際おタバコはぜひ町内のタバコ屋さんからお求め下さい。

◇役場の庁内電話番号 一部変更のお知らせ

庁舎内の机配置替えによって四月から庁内の電話番号が次のように一部変更になっております。役場へ電話をお掛けのときは、加入電話四・一四・二四番のいずれかを呼び出し、役場の交換機が出たら用事のある課名(または番号)をつけ下さい。

【変更後の内線番号】

〇番	宿直室
一 番	町長室
二 番	助役室・調査室
三 番	収入役・出納室
四 番	総務課
五 番	経済課、農業委員会
六 番	国民健康保険係
七 番	戸籍係
八 番	町民課
九 番	第二会議室
一〇番	教育委員会
一一番	簡易郵便局
一二番	財政課
一三番	小会議室
一四番	大会議室

●休日及び退庁後は四番へお掛け下さい。

耕運機はご注意

合川駅から踏切り 事故防止のお願い

農業の機械化という言葉に聞かされた方が希望があれど、農家の多くは昨今の農家は送ってあげたいと思いは耕運機ブームにわきまかえつて、お家の方あるいはお友達の方で送ってほしいといふ永かった冬から解放された農家にとつて春の一日の好天はのびのびと、この頃の耕運機、トラクターなどの走り回っている姿は誰の目にも入っている。

ところが、この季節にあちこちで思いがけない事故が発生する。昨年は秋田鉄道管理局管内で耕運機による踏み切り事故が二十九件もあったという。

ことに能代市では耕運機に乗っていった夫婦が自動車に衝突して即死するといういっぺんもまた耕運機の踏み切り事故の多発期だが、このよくなるまでの保険料はどれくらいだろうか、と年金係にきいてみた。

年金係が計算してみると二十歳から六十歳まで毎月百円あるいは百五十円と掛けていくとすれば四十歳間で六万三千円に達するといふ。いまこれを全期間分納するにすれば割引きになる。約三分の一の二万三千五百四十円で済むことがわかった。

しかもこれで、その老後はいちはお保障され、六十歳からは毎年四万二千円ずつの年金が終身受けられることになっているとのことだ。

損得計算はともかく、元子さんに着物の一、二枚多持たせるよりは老後の保障をつけて嫁にやっただけの保障を、年をとってか本人はもちろろん、親と子なる日、元子さんはきつても安心と、関心は考え、自分の老後のことを考えて二万三千円の保険料納付おいてくれた関さん夫婦に済証の貼った年金手帳を持感謝することだろう。

あなたの人権は 守られていますか?

「人権の侵害」といえる何んだかむずかしいことのように思いますが、早くいえばあなたの名譽がけがされようとしていることなのです。

◎部落の規則にそむいたからといって、部落のつきあいははずされる

◎よそ者だから、職業がいやしいから、貧乏だからといってつきあいを断わらないと不当な圧力をかけられる

◎理由もないのに姑や使用主にいじめられる

◎労組の運動をしたからといって圧力をかけたりクビにしたりする

◎不良や悪徳ボスが法律を無視してあばれる

◎寄付などを強制され応じないと不当な圧力をかけられる

◎公務員などが、職権を乱用して暴行や、不当圧迫を加える

◎名譽、信用の侵犯、宗教の自由をおかされようとしている

◎こういう困りごとで悩んでいる方は、すぐ近くの人権擁護委員に相談してください。

合川町には四人の委員が国から任命されており、次の方々がみなさんの親切な相談相手になってくれることになっております。

工藤 為治さん(上杉) 山田 佐一郎さん(木戸石) 松岡 忠さん(羽根山) 土濃塚イマさん(芹沢)

老後の保障つき」でお嫁入り

世の中に子の可愛くない親は居ないが、とかく不評を招きがちなのが国民年金にまつわる親と子の明い話題。

町の収入役関源吉さんは国民年金制度の熱心なファンで、すでに制度発足当初に奥さんを加入させて保障のことも考えておこうと奥さんと相談したところ、奥さんと異議なく賛成、そ

を出させ資格を取っておいだが、このほど元子さんは良縁を得て鷹巣町前山に嫁入りした。

他家へ呉れてしまえば自分の娘でも他人となり、年金の保険料も婚嫁で掛けたいくのがあたりまえなのだ、関さんは元子さんの老後のことも考えておこうと奥さんと相談したところ、奥さんと異議なく賛成、そ

れでは元子さんが六十歳になるまでの保険料はどれくらいだろうか、と年金係にきいてみた。

年金係が計算してみると二十歳から六十歳まで毎月百円あるいは百五十円と掛けていくとすれば四十歳間で六万三千円に達するといふ。いまこれを全期間分納するにすれば割引きになる。約三分の一の二万三千五百四十円で済むことがわかった。

しかもこれで、その老後はいちはお保障され、六十歳からは毎年四万二千円ずつの年金が終身受けられることになっているとのことだ。

あとがき

四月の人事異動で再び広報係を命じられ、いま第二回目の編集を了しましたが、まる三年も広報から遠ざかっていってしまったかと思うようにはいかないようです。今後の御支援をみなさんにお願ひ申し上げる次第です。

◆ 広報「あいかわ」も今後みなさんからの御希望、御意見を積極的にのりし、より立派なものにしたいと思ひますので、御希望や御意見を遠慮なく係までお寄せ下されば幸いです。

一、九六二、五、五 (杉)

日曜日 和田千代

お母さんの作文

一日千日、日の短かきそして忙がく、せわしい秋のは前の綱を引っぱりながら取り入れどき、久しぶりに家に居る夫を頼りに今日は遠いヒラキの桶運びをしたどこの人も飯をかみかみ足どりせわしく行き来しているさまはまるで、えさを運ぶのようだ。

「オラスなぞ泣くの……」

「オラスは山に……」午後から来た長男を桶の上のせ

行くか……。ポク行けばおめや、どうす……」

夫「おめやあ大学さ行けば、おらど泣くかも知れねなや……」

長男「ポクは……行かぬやあ……」

私「なして、好きだどこさ行けばえやったよ……」

長男「んだんで、ポク大がえさぐてしたべ……」

夫「ああそだったなあ」と私はつぶやいた。

大学へ行く。大学とは何んと思っているのだろうか。泣くかも知れないと言え行かないという、行くと

言え、うんとい、行くなと言つても、うんとい子供は心、子供の考えは私にはわからない。

長男「百より大きい何んだ、父さん……」

夫「百より大きい何んだ、父さん……」

長男「千より大きい何んだ、父さん……」

夫「万だよ……」

長男「万だか……ちやうちやう万であるもんだか」

夫「そんなのないな。万の次は億……というのもあるな。億の次は兆……といちばん大きいな」

長男「んだんで、のぶち

やんだけやあ、ちやうちやう万一番大きいってしゃべてらけや……」

私「私には親子で話し合う機会が夫の仕事の関係上あまりなかった。短い秋の日私は子の成長に最大の喜びを感じ、楽しめたいと思ひ、夕焼け空から私に赤い子の汗ばんだ顔を真ッ赤に照らしていた。

(上杉住、主婦、お母さん)

十歳になったので、加入届

夫「うん、中学校、高等学校、大学もあるよ」

長男「ポクしたら大学さば行かないという、行くと

やんだけやあ、ちやうちやう万一番大きいってしゃべてらけや……」

私「私には親子で話し合う機会が夫の仕事の関係上あまりなかった。短い秋の日私は子の成長に最大の喜びを感じ、楽しめたいと思ひ、夕焼け空から私に赤い子の汗ばんだ顔を真ッ赤に照らしていた。

十歳になったので、加入届

夫「うん、中学校、高等学校、大学もあるよ」

長男「ポクしたら大学さば行かないという、行くと